

太田まちづくり市民会議提案書

令和5年11月9日

太田まちづくり市民会議

目次

1. 提案にあたって.....	2
2. 提案.....	3
3. その他の意見.....	6
4. 会議開催状況及び委員名簿.....	7

1. 提案にあたって

太田市まちづくり市民条例は平成 18 年に施行されて以来、これまで過去 4 回にわたって見直しの検討が行われてきた。今回の太田まちづくり市民会議は通算 5 回目にあたり、無作為に抽出された市民及び学識経験者によって構成された委員によって太田市まちづくり市民条例の見直しの検討と、まちづくりに対する課題と提案に関することについて協議を行った。

太田市まちづくり市民条例は「太田市におけるすべての条例、規則等の上位規範」（条例本文より）と位置付けられているため、この条例で定められている内容については普遍的な物が多く、具体的な計画や市の施策については太田市総合計画や各種事業等に反映されている状況であることが分かった。そのため、条例の見直しの検討については大きな問題が無いかの確認の観点で実施し、まちづくりに対する課題と提案についての協議に重点を置いて会議を進めた。

太田市まちづくり市民条例本文については大きな問題は見当たらなかったため、今回の提案書では各委員が日々の生活を通じて感じているまちづくりに対する課題と提案について記載する。

新型コロナウイルス感染症の流行やデジタル技術の進歩等により、私たちの生活スタイルには様々な変化が起きている。また、気候の変化によるこれまでに経験することのなかった災害や人口減少、高齢化など、身の回りの環境も目まぐるしく変化している。今後も様々な変化が予想されるが、誰もが暮らしやすく、誇りの持てるまちづくりのためには市民、市議会、行政等の協働が必要不可欠であり、今回の提案書が今後のまちづくりのヒントになれば幸いである。

令和 5 年 11 月
太田まちづくり市民会議委員一同

2. 提案

○情報伝達について

【課題】

- ・ 回覧版による情報伝達はどこかの家で止まってしまうと円滑に情報が伝達されない可能性があるため、情報伝達の方法として限界があるのではないか。
- ・ 広報おおたが多くの人に読まれていないのではないか。

【提案】

- ・ LINE 等のツールを活用した情報伝達方法の構築が必要。最近では太田市の公式 LINE による情報発信も実施されているがまだまだ登録者数は十分ではないので、公式 LINE の啓発にも力を入れる。
- ・ 文章の校正も大事なことだが、広報に載せる記事の内容検討に力を入れる。例えば広報に関するアンケート調査を実施し、読まれない原因を探り、市民が欲している情報は何かを調査する。
- ・ LINE 等のデジタルツールによる情報伝達は即時性があるため、防災情報など迅速に発信する必要のある行政情報の発信へ活用する。

○コミュニティについて

【課題】

- ・ 個人情報への取り扱いに対する考え方が昔より厳しくなっていること等の要因によって、地域内での人間関係（隣近所とのつながり）が希薄化している。
- ・ 地域や自治会の昔からの慣習（伝統のようなもの）が今でも踏襲されている地域には、新しく転入してきた人がその地域のコミュニティに溶け込みづらい雰囲気がある。
- ・ 地域の子どもの行事について、学区外の学校に通学している家庭に対して行事の案内が届かないケースがある。

【提案】

- ・ 現状、役員等を順番に回すだけのような地域のコミュニティも多く見受けられるが、各家庭の生活スタイルも多様化しているため、不要な役員等の廃止や統合や簡素化等、形式的な負担の少ないコミュニティの形を行政も含めて検討する。
- ・ 地域の運営を親世代のような高齢の方に任せたままでには限界が来るので、地域内での世代間での交流や、転入してきた家庭への地域の現状や行事の説明をすることで地域のことを知ってもらい、若い世代が地域の運営に参加しやすくなるような土壌づくりをする。
- ・ 地域のコミュニティだけでなく、各人が属するコミュニティを複数持つことで、地域のコミュニティではフォローできない部分を補完する。共通点の多い人同士で形成されたコミュニティのほうがつながりが強い。
（例：外国人などは地域とのつながりが薄い人も多いが、宗教によるコミュニティのつながり等を活用している）
- ・ 区費等の活用について、その用途を地域の人にきちんと公表することや、結果として集めすぎた場合に還付をするなどの対応をすることで、地域の活動に対する納得感を高める。
- ・ 地域のリーダーになるような人、地域の核になる人を地域の中で発掘する。
（そのためには、日頃から地域の人同士の交流も必要）

○デジタル活用について

【課題】

- ・ SNS等のツールを活用した情報伝達も進んでいるが、デジタルツールの活用を苦手とする人への情報伝達方法を工夫する必要がある。
- ・ デジタルツールが発達することにより、本当の意味での人とのつながり（例：同じ団地に住む人同士の交流やご近所付き合い等）が希薄になっていると感じるため、デジタルとリアルのバランスの取れた活用。
- ・ デジタル化が進む中でそれについていける人とそうでない人の差があるため、苦手とする人へのサポートが必要。

【提案】

- ・ 訪問型子育て支援のシニア版のような仕組みを作り、スマホ等のデジタルツールの使い方を教える。
（例：子育て中のお母さんが高齢者の家にスマホの使い方を教えに行き、そこで教えに行った人は高齢者の人に子育て中の悩みなどを相談する。孤独を感じている子育て中のお母さんと、1人暮らしの高齢者のマッチングのイメージ）
- ・ スマホやタブレットのテレビ電話ツールを1人暮らしの高齢者のコミュニケーションツールとして活用することで、高齢者の孤独防止につなげる。
- ・ デジタルツール活用のサポートに対する意欲のある人や企業などでサポートチームのようなものを作り支援をする。

3. その他の意見

■まちづくり全般について

- ・ 様々な分野に共通することで、何か事業等を計画する際には、平等という視点だけではなく公平という視点を持ってまちづくりを進めてほしい。
- ・ 子育てが一段落した人たちは比較的時間にも余裕がある人が多く、アクティブに活動する人も増えてくるのでそういった人たちがつながりを持ち活躍できる場をつくる。(多方面における担い手不足の一助になるのではないか)
- ・ 人々の生活が多様化しているため、まちづくりの議論の場には様々な年代、性別、国籍等の人に参加してもらう必要があるのではないか。
- ・ 太田市のこれまでの取り組みについては評価しているが今後必ず市政の転換期はやってくるので、次の市政に移行する際にこれまでの太田市の取り組みを無駄にせず転換できるような土壌づくりをしてほしい。

■太田市の強みについて

- ・ 県内で3本の指に入る農業生産高を誇ることや、ヤマトイモ、小玉すいか、モロヘイヤなどの様々な太田市の特産品を活かしたPR活動を実施。(子育てをしやすいことやスポーツに関する取り組み等の強みの醸成は継続)
- ・ 自動車産業以外の太田市の強みの創出及び発掘。

■多文化共生について

- ・ 外国人に対して閉鎖的な傾向が強いため、各々が外国人や多文化に対して自発的に知ろうとする意識を持つ。(外国人のフレンドリーさを見習う)

■災害について

- ・ 災害による被害の脅威が増していることや、季節全般や台風等の到来のタイミングが早くなっているように感じるため、災害等について前倒しで対策する意識を持つ。

4. 会議開催状況及び委員名簿

○会議開催状況

年月日	会議の内容	協議内容
令和5年4月20日	第1回会議	<ul style="list-style-type: none">・ 委嘱状交付、企画部長挨拶・ まちづくり市民会議の概要説明・ 会長副会長の選出・ 条例の各章ごとに内容の確認・ 各章ごとに関連する分野に関する協議
令和5年5月18日	第2回会議	<ul style="list-style-type: none">・ 第1回会議の振り返り・ 条例の各章ごとに内容の確認・ 各章ごとに関連する分野に関する協議
令和5年6月15日	第3回会議	<ul style="list-style-type: none">・ 第2回会議の振り返り・ 条例の各章ごとに内容の確認・ 各章ごとに関連する分野に関する協議
令和5年8月		<ul style="list-style-type: none">・ 提案書の最終確認
令和5年11月		<ul style="list-style-type: none">・ 提案書の提出

○第5期太田まちづくり市民会議委員

	役 職	氏 名
1	会 長	中村 正明
2	副会長	對比地 文男
3	委 員	樋口 稔秋
4	”	西村 美弥子
5	”	萩原 佳代